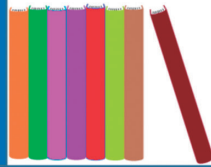




大人が絵本を 第72回 自分のいのちを守る



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

かけがえのない「いのち」を哀悼する

「いのちには、はじまりとおわりがあって その間を“生きている”という。」¹⁾

『LIFE TIMES』を原題とする日本語訳絵本『いのちの時間』の冒頭です。この言葉と補完しあう絵は、巣の真ん中に置かれた2つの「生まれたてのたまご」が写実的に描かれています。そして、こう続きます。

「いま、こうしている間も たくさんのいのちがどこかで生まれ どこかでおわりをむかえている。そして、いつもそのまん中に、生きてる時間が満ちている。」¹⁾

『いのちの時間』
ブライアン・メロニー 作
ロバート・イングベン 絵
藤井あけみ 訳
(新教出版社)



米国での新型コロナウイルスによる死者数が10万人に迫る今年5月24日、ニューヨーク・タイムズがトップ一面を含む全4ページを使い、「計り知れない喪失」という見出しで死者1,000人の名前と年齢、短いプロフィールを掲載したと報じられ、それは同時に日本のジャーナリズムのあり方を問われているようにも映りました。

同紙は、全体が活字で覆われた一面の短い前文で、「この1,000人は死者数のわずか1%にすぎない。誰一人として単なる数字ではなかった」と記して、犠牲者に哀悼の意を表したのです²⁾。6月には死者数が12万人を超えた米国では死者を「個」として捉え、犠牲者のいのちを偲び、わかちあっているのです。

いのちの「始まり」と「終わり」の間を生きている

と説く『いのちの時間』では、「生きているあいだには 病気やけがをすることもあり 死のおとずれが早まることもある。」とも語ります¹⁾。今だからこそ、重く心にのしかかる絵本です。

「いのちの大切さをわかちあうために」

副題に「いのちの大切さをわかちあうために」と附して『いのちの時間』を翻訳したのは、日本にチャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS) という小児医療の新たな専門職をアメリカから持ち込み、自ら日本国内でCLS第1号となった藤井あけみ氏です。ヒューストンの病院でCLS研修中に、エイズ末期の5歳児を担当する友人のCLSが、『LIFE TIMES』をプレパレーションに用いていたことが絵本との出会いであったと、あとがきに記しています¹⁾。

日本に帰国してから翻訳出版を思い立ったという藤井氏は、「死が自分とは関係ないと思う時期から、当たり前のように自然に死を話題にできたら、生きることも輝きを増すでしょう」と述べています³⁾。新型コロナウイルスの時代に、死は老若男女を問わないすべての人々が隣合わせで暮らすことになりました。

ウイルスだけではなく。コロナも収束しない7月上旬、3年前から毎年続く豪雨が再び九州を襲い、7月15日時点で災害による九州全体の死者数は70人を超えました。これまで自然災害の備えは、地震対策が主体でしたが、今やいつ何時、何の災害に見舞われるか予測もできなくなりました。それは、全力で家族のいのちを守らなければならないということです。

そして、子どもたちが自分のいのちを自分で守る意識を強く持っていなければならないのです。自粛

手にするときは！

子どもに。「生きる力」Part.1

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

生活のように24時間、親子と一緒に居られるわけではありません。これまでの防災意識を一変するウイルス予防教育と防災教育が、家庭や地域で必要とされるのです。

怪物に学ぶ、自分のいのちを守る術

イギリスでは、作家・ジュリア・ドナルドソン氏と画家・アクセル・シェフラー氏の共作による絵本が、書店の児童書コーナー中央に陳列されていることから見て取れるように、本国で大人気の絵本作家です。その代表作といえば「グラファロ」シリーズで、1300万部が発売され、舞台劇やアニメ映画になり、日本でもアニメ放送されています。

イギリス全土で3月23日からロックダウンが続く中、この怪物「グラファロ」たちが社会的距離をとる図や、『こえだとうさん』一家がお家の中で体操する絵がネット上で発表されたのです。このアイデアはシェフラー氏によるもので、感染拡大で世界中が大変な思いをしている中で、「イラストレーターとして自分に何ができるのか」を考えたとき、連作を思いついたと語っています⁴⁾。

『グラファロ
もりでいちばんつよいのは?』
ジュリア・ドナルドソン 作
アクセル・シェフラー 絵
久山太市 訳(評論社)



「グラファロ」は、森のネズミが架空の怪物に遭遇するお話で、「虎の威を借る狐」と同じパターンの昔話的な作品です。絵本を読んでグラファロの世界に浸った後、前述のウイルス対策のために描き下ろしたという作品に触れると、子どもたちにとってはグラファロからのメッセージそのものでしょう。

絵本と同じように、ネズミとグラファロは森の中を歩いているのですが、2人の間には距離があって、「きみはまえをあるいて。ほくは2メートルあとからついていくから」とのグラファロの言葉があるのです。「なぜ接触を避ける必要があるのか、子どもたちに重たくならず知ってもらおう」という願いから、グラファロの新しい物語が生まれたのです⁴⁾。

「社会的距離」の重要性の他にも、それぞれのお話のキャラクターたちが、高齢者の買い物を代わってあげることや、離れて暮らす家族にビデオ電話をかけることも大事だと強調しています。イギリスでは『はらぺこあおむし』の人気を上回るというグラファロらが発信するメッセージは、パンデミックの中で子どもたちの恐怖心ばかりが強くなるような配慮と、自分と相手のいのちを守る術が詰められているのです。子どもへの愛に満ちあふれたグラファロなのです。

子どもの権利を擁護していますか？

いま、世界を襲っている新型コロナウイルスを子どもたちが正しく受け止め、安心・安全に生活を送ることができるように、すべての大人は子どもを支援する責任があります。「知らない」ことが感染を広げることにもなりかねないからです。

小児医療の現場では、治療や検査を受ける子どもに対し、認知発達に応じた方法で病気、入院、手術、検査その他の処置について説明を行い、子どもや親の対処能力を引き出すような環境および機会を与える「プレパレーション」が導入されています⁵⁾。プレパレーションは医療を受ける子どもが対象ですが、コロナ禍ではすべての子どもたちが自分のいのちを守るために、また感染を回避する目的でも、これに



準じて「子どもや親の対処能力を引き出す環境および機会」を与えなければなりません。

1989年に国連総会で採択された「子どもの権利に関する条約」が、日本でも1994年に批准されて以来、子どもに必要な情報が提供されることや、子どもが自己の意見を表明できることが保障される点が注目されるようになりました。日本看護協会は1999年に「小児看護領域の看護業務基準」を作成し、子どもへの説明と同意・最小限の侵襲・プライバシーの保護・平等な医療を受ける等9項目の守られるべき権利について明文化しています⁶⁾。それが子どもの成長・発達に応じたインフォームド・コンセントであり、プレパレーション(心理的準備)です。

つまり、ウイルス感染の不安を誰もが持ち合わせている今、子どもの不安や恐怖、ストレス等の心理的混乱状態を緩和できるように援助しなければならないのです。なぜなら、子ども自身の身体及びいのちに関わってくる事象であるため、「自己の生活条件」などに直接的に影響を与える事柄のなかでも、特にその影響が甚大な問題として理解できるからです。

子どもの自己決定を促すときです

5月末日、コロナウイルスがテーマの翻訳絵本が緊急出版されました。社会で起こっている異変を問う子犬の「なに？なぜ？」に、父犬が答えていく『こいぬのルナ、コロナウイルスにたちむかう』は、カリフォルニア州で3月19日にロックダウンしてから2か月経ったとき出版された絵本です。

カリフォルニアに在住する翻訳家の上田勢子氏が原書を見て、「今までにない困難なことが起きた時、子どもたち自身が理解できる言葉で事態を説明することはとても重要なので、この本を少しでも早く日本の子どもたちにも届けたいと、超特急で出版の準備を整えた」と言います⁷⁾。すなわち、子どもの人権擁護の目的で出版された絵本というわけです。

『こいぬのルナ、コロナウイルスにたちむかう』
 アダム・M.ウォレス 作
 アダム・リオング 絵
 上田勢子 訳(子どもの未来社)



犬の親子の眼を通して、あっという間にたくさんの人が病気になったことと「免疫」との関係について、薬はまだできていないけれど研究によって開発されるまで私たちにできることについて、一つひとつ子どもたちが理解できる言葉で丁寧に説明されています。単に「手を洗おう」「社会的距離をとろう」というのではなく、それはなぜか、どういうことにつながるのかをお父さん犬が具体的に話していて、幼稚園児や小学生たちに対する「自己決定の促進」に活用できます。

巻末には、子どもの質問に大人が答えられるよう大人向け解説も記されていますから、小児病院や小児歯科医院、幼稚園や小学校にも備えたい一冊です。

ウイルス予防対策を繰り返しおさらい

子どもたちに対して発達に見合った正しい情報を伝え、正しい生活様式を身に付けることで、子どもは自分のいのちを自分で守ることができるのです。

『あらしのよるに』で著名な絵本作家・木村裕一氏が描いた『ばいきんがっこう』(偕成社)は、菌が身体に侵入する仕組みと、菌をシャットアウトするために自分でできることを迷路やクイズで遊びながら学べるので、幼稚園児には楽しい一冊です。また、体調を守るための生活習慣がイエス・ノー形式になっていて、親子で一問一答を繰り返すことで習慣化できるでしょう。緊急事態宣言によるビブリオ休館が明けてから、ビブリオキッズの幼稚園児さんたちにブームが到来した、社会問題の絵本なのです。

同じく木村裕一氏の作品『よーするに医学えほん

からだアイランド インフルエンザ編』(講談社)は、年長さんから小学生くらいの子どもがウイルスと病気を理解できる仕掛けになっています。人という島国に侵入したスパイたちを撃退する物語仕立てになっているのがミソで、ストーリーを楽しみながらインフルエンザに感染した人体で何が起きているかを追っていけるのです。人体の機能についても学べて、大人が読んでも「なるほど!」の一作です。木村裕一ウイルス絵本セットとして待合室に揃えたいです。

ペン マンガから生まれた絵本のココがスゴイ!

新型コロナとともに暮らす「新しい生活様式」も浸透してきました。手洗い、マスク、社会的距離・三密に気をつけ、子どもたちが自らのいのちと健康を守るための生活習慣を何度でも確認しましょう。

石川雅之作の『もやしもん』(講談社)は知る人ぞ知る、菌・ウイルスと農業大学生生活がテーマの漫画です。この漫画から派生した『えほん もやしもん』は、小さな子どもに向けて菌のキャラクターたちが「衛生」と「食育」をテーマにお話を進めていく全6作です。



『えほん もやしもん
きんのオリゼー てをあらおう』
いしかわまさゆき 作
(講談社)

第1作『きんのオリゼー てをあらおう』は、今もっとも活用すべき絵本です。どうして手を洗わなくてはならないかがお話し仕立てになっていて、最後は6場面からなる手洗いの手順が分かりやすい絵と説明で確認できます。2才くらいからの「自己決定の促進」につながるものです。目には見えない菌から身を守るための習慣を子どもは絵本で、大人は漫画で学びましょう。

ペン With コロナの時代に

人類はこれまでも、新しい感染症と闘ってきた歴史があります。新型コロナウイルスが収束するまで、感染を予防してウイルスの広がりを抑えながらコロナとともに暮らしていかなければなりません。コロナの感染者が国内で拡大し始めたとき、どんなウイルスか分からず、薬もワクチンもないという中での重症者の報道に、大人が強い恐怖を感じました。

未知の病気も、知識があると恐怖心は和らぎます。それは子どもも同じですし、子どもにとって大切なことです。やみくもにウイルスを怖がる前にウイルスを知って、対処できる生活行動を取ることが今もっとも大事なことです。「手を洗おう」「マスクをしよう」だけでなく、理解と納得のうえでの習慣化が身を守ることに繋がります。それが、子どもの権利条約で規定されている「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を擁護する大人の義務です。

保健指導は、医療従事者の力が甚大です。発達別に応用できる絵本の力を存分に活用してください。地域の「新しい生活様式」徹底をいま促進するときです。



文献

- 1) ブライアン・メロニー作, ロバート・イングベン絵, 藤井あけみ訳: いのちの時間, 新教出版社, 東京, 1998.
- 2) 読売新聞社: コロナ死者1000人の名前、NYタイムズ1面埋める…「数字で表せる存在ではなかった」, 読売新聞オンラインHP <https://www.yomiuri.co.jp> 2020/5/24
- 3) 藤井あけみ: こどもの心といのちを見つめて, 日本病院会雑誌 2003年9月, pp.33-36, 2003.
- 4) BBC: 怪物グラフィアロも「2メートル離れよう」人気絵本のキャラクターが新型コロナウイルス対策, BBC NEWS JAPAN HP <https://www.bbc.com> 2020/04/06
- 5) 田中恭子: プレパレーションの5段階について, 小児保健研究 68(2), pp.173-176, 2009.
- 6) 松田美鈴, 中新美保子: 手術室看護師が実施するプレパレーションに関する文献検討, 川崎医療福祉学会 22 (1), pp.103-109, 2012.
- 7) アダム M. ウォレス作, アダム・リオング絵, 上田勢子訳: こいぬのルナ, コロナウイルスにたちむかう, 子どもの未来社, 東京, 2020.